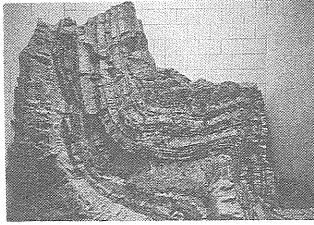


# 標本館 だより

No. 27



## 地質標本館の最近の活動

### —科学技術週間特別展示

・新着標本など—

恒例となりました工技院新規採用者の地質標本館での実施研修を終え、年度の移り変わりを実感できる季節となりました。地質標本館だよりは1989年7月号に掲載されて以来、しばらく休止状態でしたが、これまで非公式発行の標本通信の内容を盛り込んでもっと頻繁に地質ニュースに掲載し、地質標本館の現況とホットなニュースを伝えていこうと考えています。地質標本館だよりはこれまで26回掲載されていますが、通し番号がつけられていませんでしたので、本号をNo. 27として今後続けて行きたいと思います。今回のだよりは1990年度下半期から1991年度初め(4月前半)の地質標本館の活動をお知らせすることにします。

#### 第32回科学技術週間 (1991.4/15~20)

科学技術庁主催の行事に地質標本館では「大陸の衝突と資源：中東地域のエネルギー・鉱物資源」の特別展示を行いました。先の中東湾岸戦争でも注目された石油資源を中心にその他の鉱物資源も含めてその成因をプレートテクトニクスの理論からわかりやすく解説しました。展示の様式は説明パネル11枚、写真パネル5枚、岩石鉱物標本47点、原油サンプル14点、中東・西アジアの11ヶ国におよぶ標本を見ることが出来ます。また体験コーナ



写真2 原油の臭いを嗅ぎ比べる子供たち(「体験コーナー」)。6種類の原油の違いを肌で体験でき、好評を博しました。



写真1 科学技術週間(4月15~20日)の特別展示全景。

ーをつくり、私達に馴染みの薄い原油サンプルについて中東のもの5点に加えて、おとなり中国の大慶油田のサンプル1点を置き、色、粘性、臭いなどを手に取って調べることができるようにしました。一口に原油と言っても油田や油種によりその性質が微妙に違うことがわかります。これとは別にパキスタン産の岩塩もかけらをなめてその味を体験してもらうことにしました。身近なものではあるけれど普段手にすることができないものだけにもの珍しげに触れていく人が多かったようです。

この期間中の総入館者数は1,018人で、昨年と同期間の入場者数をわずかに上回りました。しかし、小・中学生の個人での入館者が昨年に比べて50人ほど下回っています。今年のテーマはより大人向きだったと言うことで

キーワード：科学技術週間、特別展示、新着標本、登録標本、地質標本館

しょうか？ なお、今回の展示で使用した原油サンプルは石油公団と出光興産（株）から提供して頂きました。この特別展示は科学技術週間終了後も6月末まで延長して行いました。

この展示は燃料資源部の全面的な支援に加え、所議で公募した結果（1991.2/12）応募のありました1987～90年度国際産業技術研究事業（ITIT）「パキスタン、コリジョン地帯の地質・鉱物資源の研究」の研究成果が盛り込まれ、地質調査所の研究成果を一般の人たちに公開するよい機会となりました。今後、他の研究グループの方々もぜひ研究成果の一般公開の場として地質標本館の特別展示を利用して頂こうと考えています。

### 入館者状況

平成2年度の入館者数は33,476人（内、外国人1,287人）でした。過去3年間、わずかに減少傾向でしたが、前年比約9%増で、久々の増加です。昭和55年の開館以来の入館者数累計は345,778人となり、35万人突破も間近です。

学校関係の研修を兼ねた見学が多いのですが、目立つところではパキスタン、モンゴル、サハリンの地質調査所あるいはその関係機関からの来訪がありました。変わったところでは日本航空スチュワーデス（12人）の見学もありました。

### 10年ぶりで展示の衣更え

平成2年度の展示設備改善補修は次のテーマについて行われました。

- ①日本列島周辺の震源分布（玄関ホール）、
- ②カラーコルトン（ジュラ紀層の大型褶曲模型1点：玄関ホール・「生きている化石」6点：第1展示室）、
- ③「生きている化石」のレーザーディスクシステム化（第1展示室）、
- ④デスモサウルス生態復元背景図（第1展示室）、
- ⑤海洋調査展示パネル（第2展示室）、
- ⑥花崗岩の観察コーナー（第3展示室）。

### 歌津魚竜クリーニング中

最近、心ない人の盗掘で話題になった（1990.11/8：読売新聞；1990.4/5：朝日新聞）世界最古の魚竜化石とされる歌津魚竜の分布調査（受託：地質標本館 佐藤喜男、地質部 鎌田耕太郎）で採集された骨格を現在剖出作業中です。これまで歌津魚竜化石の展示はレプリカ標本しかありませんでしたが、まもなく本物の展示もできる見通しとなりました。同時に魚竜化石調査で採集されたアンモナイト（魚竜と共に当時の海中で生活していた）も展示する予定です、乞うご期待!!



写真3 特別展示での1風景。岩塩（パキスタン、ソルト・レンジ産）をなめて思わず「しょっぱい!」。

### 地質標本館ミニ講座開催（1990.12月）

地質標本館普及講演として茨城県県南教育事務所初任者研修（255名）に対して地質標本館神谷雅晴館長が「地質標本館入門」講の義を行いました（於工業技術院共用講堂）。

小学生の団体見学者に対して植物化石に関するミニ講演会（講師：地質標本館 尾上 亨）を行いました（2件）。実際に植物化石を使って、鑑定の手ほどきをクイズ形式で行い、好評でした。

### 館外普及活動（1991.1/19）

学園都市の自然と親しむ会主催の「植物化石から環境を探る」（講師：地質標本館 尾上 亨）が地質標本館で開催されました。栃木県塩原町の約30万年前の植物化石の研究を例として化石の研究手法やそれから引き出される情報（過去の環境）についてわかり易い解説が好評でした。その後、ビデオ「伊豆大島火山—1986年の噴火」が上映され、地球科学の普及に一役買うことができました。聴講者は約50名でした。

### 入館者からの感想文寄せられる

団体で入館した場合、後日団体の世話人の方からアンケートや感想文が時折送られてきます。最近では早稲田大学佐藤 茂先生、茨城県県北地方総合事務所、東京農業大学山田直利先生からの感想文・アンケート集計結果を頂きました。常総学院高校の小林 恵先生からは生徒の感想文に添えて、先生自身が作成した地質標本見学の手引書も送って下さいました。

### 新着標本

昨年9月から多くの新着標本が展示されています。話

題に取り残されないようにチェックしておきましょう！

### 1) ニュージーランドの超苦鉄質岩とイグニンプライト

赤道をはさんで日本列島とほぼ対称的な位置にあるニュージーランドは、中・古生代の堆積岩や変成岩と第四紀の火山岩が広く分布するという。地質のうえでも日本列島に似た点のある島国です。このたびニュージーランド地質調査所の御厚意により、ニュージーランド南島北部のダン・マウンテン地域からの超苦鉄質岩（ダナイト・ロディン岩）と、北東中央部タウポ火山地域からのイグニンプライト（大規模火砕流の熔結凝灰岩）を寄贈していただきました。いずれも模式地からの標本であり、学術的にも貴重なものです。第4展示室入口の新着標本のコーナーに展示中です。

### 2) 地震の化石

#### シュードタキライト

日本では地球科学の研究者にとってもあまりなじみのなかったこの岩石は、現在、地質時代の断層運動（すなわち、地震）の“証拠”として注目を集めるようになってきました。本当に地震だけでできるものか、部分熔融してできたというのは事実かなど数々の興味ある点について、高木秀雄氏によるレビューが最近なされています（地質ニュースNo. 437, p.15~25）。第4展示室入口、新着標本コーナーに展示中のシュードタキライトは、高木氏の御厚意により寄贈されたもので、イギリス北部、ヘブリディーズ諸島のハリス島の、先カンブリア紀変成岩を切る衝上断層沿いに産するものです。

### 3) 岩手県釜石鉱山産銅鉱石など

天狗森鉱床西鉱体のキューパ鉱（ $\text{CuFe}_2\text{S}_3$ ）を主とする

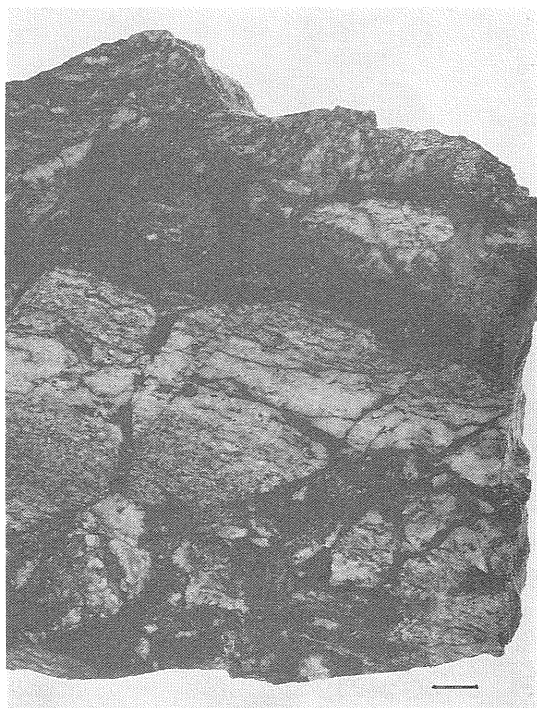


写真4 珪長質変麻岩中のシュードタキライト（黒色部）GSJ R 56918。産地：英国アウター・ヘブリディーズ諸島ハリス島（高木秀雄氏寄贈）。スケールは1 cm。

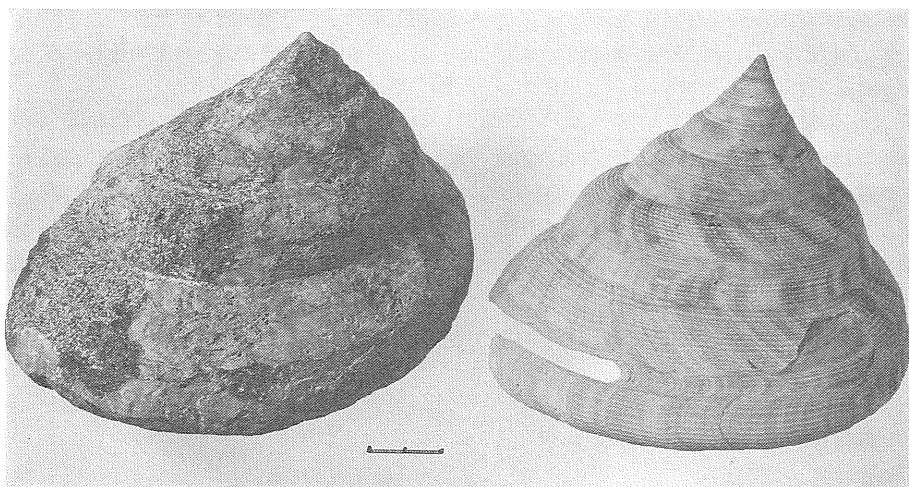


写真5 オキナエビス化石 *Perotrochus* sp. (左：GSJ F13518) と現生種 *Pleurotomaria* (*Mikadotrochus*) *hirasei* (Pilsbry) (右：GSJ F7670)。

化石産地：千葉県安房郡鋸山（新生代第三紀中新世三浦層群千畑層，井上浩吉氏寄贈）。スケールは2 cm。



写真6 メタセコイアの葉(1)と球果(2)の化石 *Metasequoia occidentalis* (Newberry) Chaney (GSJ F 13416).

産地：京都府宮津市木子（新生代中新世北但層群，尾上亨採集）。スケールは1cm。

鉱石2点，黄銅鉱を主とし，磁硫鉄鉱をとまなう鉱石2点，新山鉱床の黄銅鉱・キューバ鉱・磁硫鉄鉱よりなる鉱石1点で，天狗森西鉱体 900mL 産の鉱石 (GSJ M 19587) は大型でキューバ鉱に特に富む展示用の標本です。キューバ鉱は高温鉱床に特徴的な鉱物でスカルン鉱床や深成高温鉱床で見られますが，顕微鏡的なものが多く，この標本のように肉眼で確認できる標本は珍しいものです。

この他に，新山鉱床の Vonsenite ( $\text{Fe}_2\text{FeBO}_6$ )，及び佐比内鉱床産磁鉄鉱・ざくろ石スカルン（“とら鉱”）が日鉄鉱業（株）から寄贈されました。

釜石鉱山は明治初頭，官営鉱山として近代日本の製鉄業を支えてきた重要な鉱山で，戦後は銅鉱石の開発を始め，現在に至っています。最近は脈石ざくろ石の加工品やミネラルウォーター販売など，多方面の事業を展開しております。

なお，この標本はただ今展示準備中です。

その他

第1展示室 生きている化石のコーナー

4) オキナエビス化石1点（千葉県鋸山，中新世：井上浩

吉氏寄贈）

5) メタセコイア球果化石1点（京都府，木子，中新世：地質標本館 尾上 亨採集）

第4展示室 新着標本のコーナー

6) アメジスト1点（ウルグアイ：購入）

7) ベレムナイト化石7点（イギリス，ジュラ紀：環境地質部 宮田雄一郎採集）

第4展示室 分類展示コーナー

8) メタセコイアの葉と球果の化石1点（京都府，木子，中新世：尾上 亨採集）

10) 鶏冠石と方解石1点（中国，湖南省：購入）

11) 藍銅鉱1点（アメリカ，アリゾナ：購入）

登録標本最終番号（1991年3月31日現在）

R（岩石）：52417，M（鉱物）：21809，F（化石）：13415，

B（試錐）：335，D（鉱床）：66

（地質標本館：利光誠一・奥山（楠瀬）康子・豊 遙秋・小沢泰子）